

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「笑顔がすてき いいこといっぱい 下和泉」～ ふれあい めめ合い 学び合い ～

○自ら課題を見出し、共に学び合うことで基礎・基本を身につけ、主体的に学ぶ態度を育てます。【知】  
 ○進んで自分らしさを発揮し、自分のよさを伸ばせるとともに、他の人との違いも認め合うことができる子どもを育てます。【徳】  
 ○健康や安全の大切さに気づき、心身ともに健やかな子どもを育てます。【体】  
 ○共に学び合い、地域社会の一員として、より豊かな人間関係を築ける子どもを育てます。【公】  
 ○様々な社会の変化に柔軟に対応できる子どもを育てます。【開】

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

＜自分らしさを発揮しようとする姿勢＞ ＜多様性を尊重する態度＞ ＜思いや考えを表現する力＞	具体化した資質・能力
	他者との「ふれあい」を通してありのままの自分を理解し、そのよさを発揮しようとする姿勢 一人一人の違いや多様性を理解し、その価値を「認め合い」、尊重する態度 協働的な「学び合い」の中で自分の思いや考えをもち、効果的に表現する力

中期取組目標

○人との豊かな関わりを通し、成功体験をふやすことで自分に自信をもち、意欲的に活動に取り組む子どもを育てます。

・多様な考えを働かせ、思考力・判断力・表現力等を身につけることで、主体的に学ぶ子どもを育てます。  
 ・人と豊かに関わることで、自分の良さに気づき、自己有用感をもてる子どもを育てます。  
 ・キラリンピックの取組や学校保健委員会の取組を通し、健康や安全の大切さに気づき、心身ともに健やかな子どもを育てます。  
 ・まちとの関わりを大切に、地域社会の一員として、より豊かな人間関係を築ける子どもを育てます。  
 ・様々な社会の変化に柔軟に対応できる子どもを育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業づくり	①子どもが安心して授業に臨めるように、授業改善を図るとともに、学習環境を整える。 ②子どもが学ぶ楽しさを味わえるように、教材研究を充実させる。
担当	経営推進

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
(1)学力に関わる児童の実態 ○横浜市学力学習状況調査による学力の状況としては、市平均には及ばず、学力は低い傾向が続いている。 ○学習意欲が低いわけではなく、学力レベルに沿った授業を工夫して行うことで、楽しみながら学習に取り組む児童は多い。 ○どの学年においても、日々の学習においては、基礎基本の定着に苦慮する実態があり、発展や応用的な学習を展開することに課題がある。 ○学習への取り組み方や家庭学習の状況は個人差が大きく、学力の向上や学習内容の理解の定着にも、個人差がある。 ○思考力や読解力の少なさが、表現力の低さへとつながっており、授業改善を通して、資質能力の育成を図る必要性を強く感じている。	子どもが主体的に学びに向かえる授業づくり 子どもの思いを生かす授業づくり
(2)これまでの学校の取組状況 ○中期学校経営方針や学力向上アクションプランでは、授業改善や学力向上を目標や重点取組として掲げて取り組んできた。 ○校内重点研究とも関連させ、子どもが「わかる楽しさ」を味わい、自ら学びに向かっているような学習展開を目指して、授業改善を図ってきた。 ○情報環境を整備し、教材の共有化を図ったり、タブレット等の活用を進めたりすることで、児童の学習意欲を高めるとともに、教師の授業準備の省力化を図ってきた。 ○家庭学習への理解や協力について積極的に発信をしたり、スキルタイムをモジュールで時数として計上したりして学力の定着を図る取組を続けてきた。	目標を実現するための具体的行動プラン 上半期 ○学年研やブロック研において、単元構成や授業展開などを具体的に検討し合える時間を大切にしている。 ○重点研と絡めながら、様々な行事や学習を関連付ける学習の総合化を意識した単元構成、授業づくりを進める。 ○学びの主体が子どもであることを常に意識して、子どもの意見をつなげて学習をつくるために、子どもの興味・関心をひく教材研究をしたり、発問や切り返しなどの教師の授業での役割を日々見つめ直したりする機会を多く設ける。 ○めあてと振り返りを大切に学習展開を意識する。 ○児童が気づきや思いや考えなどを豊かに表現したり、お互いの意見を大切に伝え合ったりする活動や学習を、年間を通して意図的・計画的につくっていく。 下半期 ○児童の上半期の育ちをふり返る機会を設けて、下半期の授業づくりの改善について、学年やブロックで検討する。 ○なかよしペアを活用したり、地域や家庭と連携したりすることで、児童が夢中になって取り組むような授業づくりを進める。 ○重点研を軸にして、校内でお互いに授業を見合う機会を設け、教師同士もお互いに学び合う環境づくりを進める。 ○客観的データに基づいて、児童の成長や学力向上の状況を把握する。 ○次年度に向けての課題を整理し、目標設定の見直しや具体的取組の改善を行う。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
特別支援教育	①児童理解の場をもち、児童理解を深める。②児童理解と支援方法について、研修や打ち合わせを通して、多様な視点をもつことで児童一人ひとりの困り感やニーズに対応した支援の推進を図る。
担当	児童指導

豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
(1)豊かな心に関わる児童の実態 ○横浜市学力・学習状況調査より、学習を大事だと考えている児童が多いが、学習への主体的な参加や学習への理解度は低く、学習を通して達成感や満足感を感じられていない。自分の思いや考えを発表することに対して苦手意識をもつ児童が多い。 ○生活アンケートから学校は楽しいと感じている児童が多く、友達関係やコミュニケーションは概ね良好であり、学校生活を楽しく過ごしている児童が多い。	子ども同士が同じ社会に生きる人間として、互いに正しく理解し、助け合い、支え合う大切さを学ぶなど、自他の価値観を尊重できる態度を育成する。
(2)これまでの学校の取組状況 ○「特別の教科 道徳」を重点的取組教科に位置づけ、各学級担任が自己有用感を育む道徳教育を目指して展開していく。 ○子どもの社会的スキル横浜プログラムの指導プログラムを教育課程の中に位置づけて実施し、意図的・計画的に子どもの社会的スキルの系統的な育成を図る。 ○ソーシャルスキルトレーニングを教育課程の中に位置づけ、日々の生活の中で人間関係をよりよく作っていくための学習を展開していくことにした。 ○日々の教科領域の授業の中で、子どもの社会的スキルの育成をねらった授業を展開することにより、だれもが安心して授業を受けることができるようにする。 ○教師のいじめへのアンテナを高くすることで些細なことでもいじめとして認知し、児童が安心して生活できる環境を整えてきた。	目標を実現するための具体的行動プラン 上半期 ・道徳教育について、家庭・地域に発信する。学校HP、学校だより、学年だより等にて、家庭・地域に発信、意識の啓発を図り、連携し児童を育み、家庭・地域の指導力を道徳の時間に生かす。 ・学校全体での組織的な特別支援教室の実施を行う。安心して学習できる場を提供することで学力の向上を図るとともに、自己効力感や自信を高める。 ・児童指導にて組織的な対応を行う。学年・専任・管理職が連携して対応していく。連携を通して、子どもの思いに寄り添った対応に務め、それぞれの思いをとらえていく。保護者とも連携を行い、その場に応じた適切な指導と支援を行うことで、児童の自尊感情を高める。 ・様々な困難を抱えた子どもに配慮した指導方法についての児童理解研修や傾聴研修を実施することで、児童の思いを受容し安心して児童が学校生活を送れるようにする。 ・YPアセスメントの見とり方・活用方法についての研修の実施することで、具体的なYPプログラムを選定・実施する。各月の第一水曜日を「YPデイ」、第三水曜日を「SSTデイ」とする。 ・ペア学年での取組を多くもつ。教室配置の工夫、水曜中休みは「ペア学年タイム」をつくる。 ・打ち合わせや職員会議を活用し、日常的に児童理解に努める。緊急に対応が必要な場合などはいじめ防止対策委員会などを通して検討・対応し、児童が安心して生活できる環境を整える。 下半期 ・特別支援教室の振り返りを行う。特別支援教室の児童・保護者の声をもとに、新たな課題を明確にし、来年度以降の支援に生かしていく。 ・学びの場について柔軟に考え、児童の励みとなるように出席の取り扱いについて学校以外の場でも保護者や外部組織と連携した上で、出席と認めることを検討する。また、評価に関しても児童の励みとなるように児童の頑張りを見とり、評価していく。 ・幼保小連携による児童・幼児の交流を行う。1年生・5年生を中心として実施する。園訪問、幼稚園・保育園からの引継ぎの実施。 ・横浜型センター的機能を活用し、専門的な見地や視点を獲得することで、具体的な児童への指導方法を獲得し、支援にあたる。 ・日々のなかよしペア活動を通して、お互いのためにどんなことができるか計画を考えたり、実際に交流したりする。その都度の振り返りを通して、自分の成長を感じられるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
保健管理	①家庭との連携とともに、児童会活動の取組や学校保健委員会を活用しながら、自立や実践につながるような姿を培う。②一校一実践運動を生かし、運動に親しむ機会を設けることで体力の向上を図る。
担当	児童指導

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
(1)健やかな体に関わる児童の実態 ○健康診断では、むし歯・歯石のある児童の数が多く、歯磨き習慣がついている児童が少ない。保健室に入室した児童の多くは朝ご飯を食べておらず、睡眠時間も少ない。 ○横浜市学力・学習状況調査の生活・学習調査では、朝食を毎日食べているか、睡眠時間、などが少ない傾向にある。また1日どのくらい運動しているか、という項目においても市平均より運動時間が少ない状況にある。 ○普段の体育の学習では、運動に親しみ、体を動かすだけではなく、「どうすればチームで連携したり、よりよい動きにつながるのか」などを学習カードに記入したり、チームでアドバイスしあったりして思いを表現していた。	児童一人ひとりがより健康的な生活について自ら考えたり、具体的な実践をしたりすることや保護者との連携を通して、主体的に生活習慣を改善しようとする態度を育成する。
(2)これまでの学校の取組状況 ○体育科では、各学年において、「わかる・できる」楽しさを味わう授業を展開し、運動が好きになるように学習を実施してきた。 ○各学年の授業において、新体力テストの結果分析を児童自身が把握できるようにし、自己のめあて設定に生かせるようにしてきた。 ○運動会やスマイルタイムを6年生や運動委員会が中心となって運営し、運動に親しむようしてきた。	目標を実現するための具体的行動プラン 上半期 ○横浜市体力・運動能力調査を通して、生活習慣についての児童理解を深め、朝ごはん、歯磨き、手洗い、睡眠時間の大切さなどについて学年に応じた指導を行うとともに、保健委員会を中心に歯磨きの大切さ、歯磨きの仕方に関する活動を実施する。 ○一人一人の課題を明確にし、具体的な実践にできるように横浜市体力運動能力調査や健康診断の結果を各自が振り返り、課題を明確にする時間を設定する。 ○体育科の学習内で自分の思いを表現できる力を育成するために、授業内で学習カードに自分の考えをまとめられたり、アドバイスしあったりできるようにする。 ○なかよしペア活動での異学年交流の中で運動を通じたコミュニケーションを推進する。 ○特別活動(2)の学習から、現在の自分の生活習慣を見直し、自分自身の課題に気づき、改善するための目標を設定する。 下半期 ○保健だよりを通して、日常的な健やかな体に関わる取組を家庭・地域に発信する。 ○学校保健委員会を通して、生活習慣に関わる具体的な取組を行い、児童への実践とともに、保護者への啓発をしていく。 ○歯科巡回指導で、歯磨きの仕方や歯の健康を自ら守る意識を高める。 ○発育測定で自分の体の成長を知り、体の発達に興味を持たせるようにする。